

後援会だより

第 22 号

2016 年 9 月 26 日発行

編集発行／鹿児島大学法文学部後援会

本誌の案内

- ごあいさつ
後援会会長・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
法文学部長（後援会顧問）・・・・・・・・・・1
- ゼミ紹介
マクロ経済学ゼミ・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

- 平成28年度後援会総会（第14回）・・・・・・・・・・2
- 就職状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 平成27年度決算・平成28年度予算・・・・・・・・・・4
- 平成27年度後援会役員一覧・・・・・・・・・・4

後援会会長ごあいさつ

法文学部後援会会長 石堂 敦志



今年もうだるような暑い夏を迎えて、重ねる年齢とともに体調管理に気を配るようになりましたが、会員の皆様におかれましては日頃よりご健勝のこととお慶び申し上げます。

私は、先の7月9日に開催されました「平成28年度鹿児島大学法文学部後援会総会」において会長に選出され、お引き受けいたしました石堂です。不慣れではございますが、会員の皆様をはじめ役員・事務局の方々のご協力のもとで、自分に与えられた役割を果たしてまいりたいと考えますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

さて、平成28年度事業計画では、5つの事業に基づく48の支援・補助についてご承認をいただきました。大学は勉強する場ではありますが、一方では社会に巣立つまでの数年間の大学生活のなかで、さまざまな経験を通じて、判断力・コミュニケーション力・社会適応力などを身につけていく大切な時期でもあると思います。

本後援会では、子どもたちが通っているこの法文学部で、より充実した大学生活を過ごすことができるように、目的に応じたさまざまな事業を行っております。

保護者としては会員という立場を通して、子どもたちの成長を支援していることをうれしく思うと

もに、その目的である「教育研究の振興及び福利厚生の実現」が効果的に達成されるよう願っています。

我が身を振り返れば、親の保護のもとで大学生活を送り、そのときに得た知識・経験・友人らのおかげで、かけがえのない時間を過ごし、大切な思い出をつくることができたことに感謝しています。

以前、「乳児期には肌をはなさず」・「幼児期には手をはなさず」・「学童期には目をはなさず」・「思春期には心をはなさず」という言葉を聞いたことがあります。

社会に巣立つまでの間は、親として「心をはなさず」を心がけながら、子どもたちの「自立」と「自律」が大学生活を通じて育まれることを見守りたいと思います。

本年度も後援会活動へのご支援とご協力をお願いして、ごあいさつとさせていただきます。

法文学部長ごあいさつ

法文学部長（後援会顧問） 高津 孝

7月9日（土）の後援会総会にはたくさんの保護者の方のご参加を得て盛会となりました。お忙しい中、ご参加いただいた保護者の方々には感謝を申し上げます。

後援会の事業は、大きく5つの分野に分かれ、それぞれに助成金を支出して大学自身の活動の不十



分な側面を補うという機能を有しております。いずれも重要な事業ではありますが、私にとって、特に印象的な部分は、学生の様々な活動への補助です。というのは、後援会総会で特に楽しみにしておりますのが、学生の発表だからです。後援会総会では、援助を受けた団体、ゼミの代表学生が自分達の活動の内容を、パワーポイントで作成した映像を示しながら説明します。元気な発表もあり、また、そうではないものもあり、よく整理された分かりやすい発表もあり、また、未整理の雑然とした発表もありと、完成度はそれほど高くありませんが、学生さんたちの今の状況がよくわかり、微笑ましい印象を与えてくれます。実際に大学生として送り出したお子さんたちが大学でどのような勉強をしているのか、どのような活動に従事しているのかは、なかなか保護者の立場からは見えにくいとのご意見も伺っております。来年度は是非、後援会総会に参加されて、学生たちの生の姿を見る機会を得てはいかがでしょうか。

ゼミ紹介 ～マクロ経済ゼミ～

経済情報学科教授 金丸 哲

ここでは、マクロ経済学のゼミ（1クラス15名程度で行う対話形式の授業）の簡単な紹介をさせていただきます。経済情報学科では、2年生から、同一担当教員のゼミに2年間所属し、4年次に特殊研究を書いて卒業という少人数教育体制を準備しています。したがって、ゼミの学生諸君とは、3年間のお付き合いをすることになります。

ここ数年は、マクロモデルの基礎となる国民経済計算の問題を取り上げています。国内総生産（GDP）、国民所得等の数値は、この国民経済計算統計から導かれます。複式簿記が1つの会社の業績



を表示するのに対して、国民経済計算は、一国を対象にしています。国民経済計算は、複式簿記の考え方に基づいています。この国民経済計算の枠組みが、複式簿記の理論に基づいて、いかに導きだされるのか、具体的に勉強してきました。

ゼミのやり方は、3年生が、前年度の内容を2年生にレポートするという形式を取っています。その際、3年生は、内容を単に説明するのではなく、2年生が、なぜ、どうして、と疑問をもつようなやり方で進めてほしいと考えています。

疑問点を見つける例として、あまり適切でないかもしれませんが、各年のGDPが以下の数値だったとします。1年目：100、2年目：120、3年目：180。1年目から2年目の成長率は20%、2年目から3年目のそれは50%です。それではこの3年間の平均成長率は何パーセントでしょうか？20%と50%を足し、2で割って、35%でしょうか。この数字は、必ずしも正確ではありません。ゼミでは、このような例を通じて疑問点を見つけて、考える力を養ってもらうようにしています。

平成28年度後援会総会（第14回）

平成28年7月9日（土）に第14回法文学部後援会総会が開催され、保護者・教職員等あわせて100名以上が出席しました。総会では、高津法文学部長による挨拶の後、①会長の選出、②役員を選出、③平成27年度事業報告（案）、④平成27年度決算および監査報告、⑤平成28年度事業計画（案）、⑥平成28年度予算（案）について審議が行われ、原案通り承認されました。

次に報告事項として、金丸常任理事から平成28年度法文学部後援会への入会状況が説明された後、中島就職委員長から昨年度の就職状況について報告が行われました。



続いて、保護者の方々に後援会が行う教育研究活動への支援事業に関する理解を深めていただくために、支援を受けた学生たちが活動体験報告を行いました。今年度は、小林ゼミ学生による「地理学野外実習報告（甌島）」と、石塚ゼミ学生による「アベノミクスの評価」に関する報告が行われました。そして、総会の最後には、司法政策研究科と臨床心

理学研究科の概略について各研究科長から紹介がありました。

総会終了後に開催された懇親会には、保護者・教職員あわせて約80名が参加されていました。大学生活や教育内容、就職状況等について活発な情報交換が行われ、盛況のうちに平成28年度の総会を終えることができました。

就 職 状 況

法文学部就職委員長 中島 大輔

今年3月に卒業した平成27年度卒業生の就職率は、前年度比2.5ポイント増の95.3%となりました。過去5年間では25年度の95.7%に次ぐ高い数字です（表1）。

また民間企業・公務員の比率は、民間76.8%、公務員23.2%となりました（表2）。これは前年度とほぼ同じ割合ですが、27年度の特徴としては国家公務員が近年最多の15名に達した点が挙げられます。また民間に関してはここ2年間小売業がトップでしたが、27年度は再び金融業への就職者が最多となり、以下就職者の多い順に小売業、卸売業、情報通信業と続いています（表4）。

就職地域別では県内が50.3%、鹿児島県を除く九州が29.9%で全体の約8割を占め、多くの学生が出身地に近い地域で就職している状況がうかがえます（表3）。

全体として就職状況は悪くありませんが、一方で大学卒業生の就職3年以内の離職率は全国で30%を超えます（平成23年卒で32.4%＝厚生労働省調査）。種々の要因があるにしても、学生にとって真に自分の希望する仕事を見つけるのが難しい状況に変わりはありません。学生諸君には、まず大学での勉強や研究、学生生活を通して自分の将来を考えてほしいと願っています。

その上で就職委員会は、今後とも後援会のご支援を賜りながら、4年生の就職活動支援や3年生向けの就職ガイダンスの開催など、全学の就職支援室とも連携して学生のサポートに当たりたいと考えています。

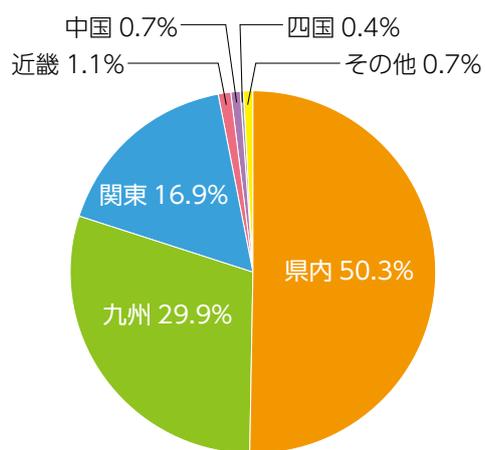
1. 平成27年度卒業生の就職率

学 科	法 政 策 学 科	経 済 情 報 学 科	人 文 学 科	合 計
就職希望者数	68人	127人	103人	298人
就 職 者 数	66人	119人	99人	284人
就 職 率	97.1%	93.7%	96.1%	95.3%

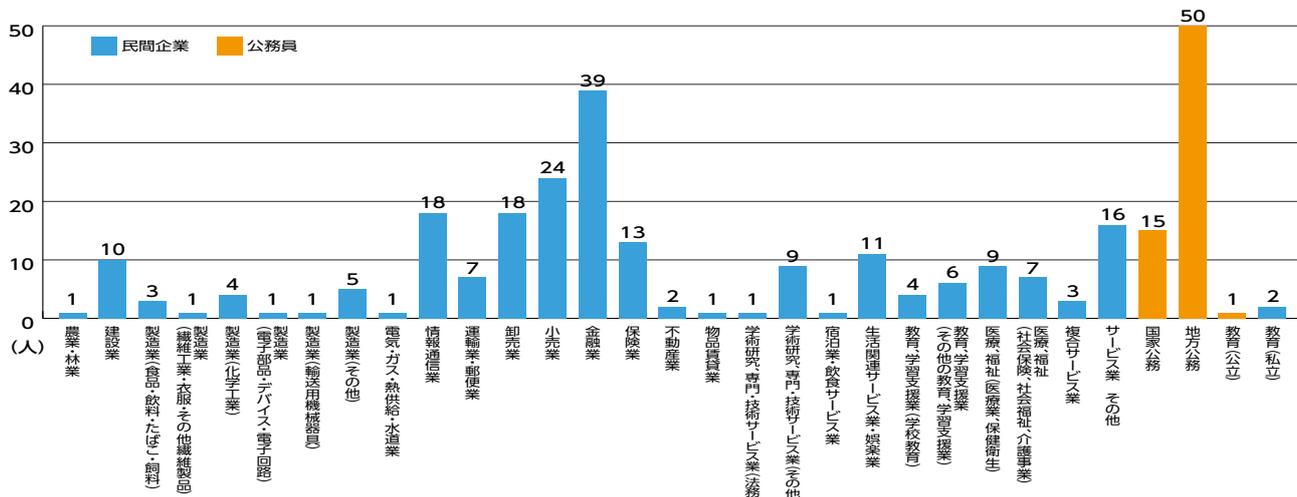
2. 平成27年度卒業生の公民別就職状況

学 科	法 政 策 学 科		経 済 情 報 学 科		人 文 学 科		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
公務員・教員	15人	14人	8人	15人	4人	10人	27人	39人
民間企業	21人	16人	43人	53人	18人	67人	82人	136人
合 計	66人		119人		99人		284人	

3. 平成27年度卒業生の地域別就職状況



4. 平成27年度就職者数(284人)の産業種別内訳



平成 27 年度決算・平成 28 年度予算

[平成 27年度決算]

1. 収入の部

平成27年4月1日～平成28年3月31日 (単位: 円)

項目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減額 (B-A)	摘要
正 会 員 会 費	6,650,000	5,400,000	△ 1,250,000	保護者会員
特 別 会 員 会 費	640,000	608,000	△ 32,000	教職員会員
賛 助 会 員 会 費	50,000	30,000	△ 20,000	同窓会員
雑 収 入	160,000	205,591	45,591	後援会総会・理事会懇談会会費 (参加者から徴収)、預金利息等
前 年 度 繰 越 額	15,229,910	15,229,910	0	
合 計	22,729,910	21,473,501	△ 1,256,409	

2. 支出の部

項目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減額 (B-A)	摘要
事 業 費	5,976,892	4,579,812	△ 1,397,080	就職支援室運営、就職支援、教育研究活動支援、福利厚生支援、教育環境整備支援
会 議 費	300,000	279,500	△ 20,500	懇談会経費 (参加者から会費を徴収して支出)、後援会総会のお茶ペットボトル代等
事 務 運 営 費	1,200,000	1,107,753	△ 92,247	後援会事務職員給与、通信費、消耗品費
予 備 費	200,000	0	△ 200,000	
次年度繰越額 (うち返還準備金) ※2	15,053,018	※1 15,506,436 (14,700,000)	453,418	※1 平成28年3月31日現在の預金残高
合 計	22,729,910	21,473,500	△ 1,256,409	

※2 「返還準備金」とは、正会員の会費が年額5,000円で、最短修業年限分の会費を一括納入することに伴う、解散等不測の事態が生じた場合の返還に備えるための準備金。正会員 (学生の保護者等) の前払い会費の合計額で、平成26年度末に必要な返還準備金額 (14,700,000円) を計上した。

[平成 28年度予算]

1. 収入の部

平成28年4月1日～平成29年3月31日 (単位: 円)

項目	27年度予算額 (A)	28年度決算額 (B)	増減額 (B-A)	摘要
正 会 員 会 費	6,650,000	6,000,000	△ 650,000	保護者会員
特 別 会 員 会 費	640,000	608,000	△ 32,000	教職員会員
賛 助 会 員 会 費	50,000	30,000	△ 20,000	同窓会員
雑 収 入	160,000	205,591	45,591	後援会総会・理事会の懇談会会費 (参加者から徴収)、預金利息
前 年 度 繰 越 額	15,229,910	15,506,436	276,526	
合 計	22,729,910	22,350,027	△ 379,883	

2. 支出の部

項目	27年度予算額 (A)	28年度決算額 (B)	増減額 (B-A)	摘要
事 業 費	5,976,892	5,695,332	△ 281,560	就職支援室運営、就職支援、教育研究活動支援、福利厚生支援、教育環境整備支援
会 議 費	300,000	300,000	0	懇談会経費 (参加者から会費を徴収して支出)、後援会総会のお茶ペットボトル代等
事 務 運 営 費	1,200,000	1,200,000	0	後援会事務職員給与、通信費、消耗品費等
予 備 費	200,000	200,000	0	
次年度繰越額 (うち返還準備金)	15,053,018	14,954,695 (14,700,000)	△ 98,323	
合 計	22,729,910	22,350,027	△ 379,883	

平成 28 年度後援会役員一覧

会 長：石堂敦志 副 会 長：秋丸幸子 (臨床心理学研究科) 前之園真弓
 顧 問：高津 孝 常 任 理 事：金丸 哲 理 事〔教 員〕：
 理 事〔保護者・社会人学生(本人)〕：
 (法政策学科) 永留宏幸、福田智子 (法政策学科) 森尾成之
 (経済情報学科) 石堂敦志、秋丸幸子 (経済情報学科) 石塚孔信
 (人文学科) 高橋絹代 (人文学科) 飯田昌子
 (人文社会科学研究科) 寿 洋一郎 (司法政策研究科) 伊藤周平
 (司法政策研究科) 小島くみ (臨床心理学研究科) 宇都宮 敦浩
 監 査：野間尚宣、澤田成章 監 事：上國料 宏

問い合わせ先 鹿児島大学法文学部後援会事務局

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 電話099-285-7510 (7602) FAX 099-285-7609
 E-mail kouenkai@leh.kagoshima-u.ac.jp 後援会ホームページ http://www.kadai-houbun-kouenkai.jp/